

2024年6月20日

学校法人三幸学園
名古屋こども専門学校
校長 村橋 一成 殿

学校関係者評価委員会
委員長 下里 和正

学校関係者評価委員会実施報告

2023年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 下里 和正 (社会福祉法人多加良浦学園 たからうらこども園 園長)
- ② 梶田 玲奈 (第6期卒業生)
- ③ 藤原 信一 (飛鳥未来高等学校名古屋キャンパス キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024年6月20日 (会場 名古屋こども専門学校 本館501教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 名古屋こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 本田和寛

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 下里和正

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・目標の明確化のためにルーブリックの導入

⇒生徒の成長目標、教員の指導目標の明確化のために年度初めからルーブリック評価を提示し成長・指導両方の側面の質向上を行った

・規定の明確化

⇒教務および実習において、規定を明確化することによりブレない指導を行えるように明確な設定を行った

② 学校関係者評価委員会コメント

・ルーブリックを導入していることは本人も教育者もお互いに確認できるのでとてもいい取り組みである。(全委員)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・育成人材像をご理解いただくために、ルーブリック評価をもとに保護者および入学生へ説明を行ったが年度途中にて具体的に使用しきれず生徒の理解を深めることができなかった
- ・学校生活の振り返りの際にルーブリック評価を用いたが、具体的な成長度合いについては図れていない

② 今後の改善方策

- ・ルーブリック評価の内容精査および使用方法についての再検討
- ・教員が生徒の成長過程を評価するだけでなく、各学年生徒自身が自分の成長度合いを測れる指標として、各学年が年度初めより成長実感できる環境づくりの設定を図る
- ・社会に貢献できる人材となるために、生徒に向けて園長講話等、社会（現場）の話をしていただく機会を作り、冒頭にて必ず学園の理念を生徒に伝える。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ルーブリック評価は社会人でも振り返る必要があるため、学生のうちから見ておく機会があることはいい取り組みである。実際に園でも掲示をしているが振り返る機会は個人に委ねている。（下里委員）
- ・紙を渡すだけなら振り返る学生と振り返らない学生がいる為、HR 等で PPT を用いて常に伝え続けてほしい（梶田委員）
- ・通信制卒業の学生は、理解はしているが求められるものが大きい為一歩引いてしまう学生がいると思う。意図をしっかりと説明すれば理解はしてもらえらると思うので、使用する場合は事前説明を行ってほしい（藤原委員）
- ・毎年園でも自己評価をしているが設問が50項目あるため、随時振り返りをするのは難しい。10項目程度の方が振り返りやすい。1、2 年目は自分の保育観を見つけるというより、園の保育観を知り様々な経験をしてほしい。（下里委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・新人事制度の開始により、制度の理解度を高める

② 今後の改善方策

- ・評価者面談等により、仕事に対する評価基準を明確化させる

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・キャリア教育において、現場経験の有無により知識差が生まれ十分なサポート体制が整えることができなかった
- ・経験の浅い教員に対して、業界理解を含めたOJT指導内容の精査が必要
- ・業務遂行に対するフィードバック体制の機会構築

② 今後の改善方策

- ・教員の学び向上のため、教員の現場体験の検討
- ・案内されている研修だけでなく、常勤メンバーにおける研修会の実施に努める
- ・OJTやTTの実践場面を増やし、メンバーが考えて動ける環境の構築に努める
- ・研修だけではなく、業務におけるフィードバックや方向性の確認のタイミングを設定する

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・長年勤めている講師の先生に ICT の研修を実施したことがあるが、理解に時間がかかってしまう。
しかし、今の時代はメモをするのも iPad などを使用しメモ帳を使う文化は無くなりつつある。
そのため、専門学校に入学をして時代の流れと反する指導をすると目標喪失につながる可能性を考慮し、あらかじめ発生しそうなギャップを考えておく必要がある(藤原委員)
- ・現場で働いているベテランの職員は ICT 技術がないが、若い職員は当たり前 PC を使用している。
名古屋こどもの様に講師の先生たち同士教え合う環境は素晴らしいと感じる。(下里委員)
- ・入社した時は手書きでお帳面を書いていたが、現在は廃止となり ICT を積極的に活用している。
しかし人によって PC をしっかり使用できている先生と苦手な先生がいる。現場の状況も踏まえパソコンを使用する授業は専門学校時にもっと導入してもいいと思う。しかし ICT のいい面も手書きのいい面もある為使い分け使用してもいい(梶田委員)
- ・今の 18 歳は PC の使用ができる。レポート課題もキーボードがないと入力できないものになっている為、積極的に PC を使用している。(藤原委員)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- ・実習中止者や出席不良などの要因により、資格取得に繋がらず科目等履修生で在学している生徒が数名いる
- ・通信課程を卒業してきた学生が増え、生活習慣が整っていないことから退学に至るケースがある
- ・精神的に不安定になる学生への対応
- ・就職後のキャリア形成について理解を深めることができなかった

② 今後の改善方策

- ・資格についての重要性を卒業学年だけではなく、進級学年のタイミングから伝達をしていく
- ・スクールカウンセラー常駐の検討
- ・単位状況は本人だけではなく、状況に応じて保護者へも共有をしていく

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・実習日誌については簡略化ができないか。実習自体が大変な中、日誌を書くとなると学生が疲弊してしまうことも考えられるため、アプリの導入などできれば、実習を乗り越えられる学生も増えるのではないか。（下里委員）
- ・通信制卒業生もだんだん増えてきており、専門学校システムを変えていかないとギャップが生まれてしまう。週4登校週1オンラインを導入するなどを検討してほしい。（藤原委員）

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・保護者連携を望むが、家庭環境の状況から本人・保護者間にうまく話が進められないことがある。
また、学生自身が成人年齢を迎えているため本人が希望をしない場合は保護者連携に進まない場合がある。

② 今後の改善方策

- ・担任のみで解決するのではなく、スクールカウンセラーの紹介を行い、状況に応じて名古屋市の専門窓口の案内も行う。
- ・中途退学後も就職や再進学を望む場合、必要に応じて本人や保護者への連絡を行っていく

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・園では、保護者と積極的にコミュニケーションを図ることを職員に伝えている。（下里委員）
- ・保護者が確認できるツールをキャンパス内独自で設定しており、QRコードを読み取ると学生の状況が分かるようになっている。学校から連絡を取るというよりも、保護者自らが状況を確認できる環境を作っている（藤原委員）
- ・国家資格を持っていなくても講習を受け保育サポートの資格を取れる制度について、名古屋市は独自の制度があり、資格を取っていた方が働きやすい環境ができています。（下里委員）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・校舎の破損箇所が目立っている状態

③ 今後の改善方策

・校舎の修繕を行い、生徒が気持ちよく学べる環境の提供に努める

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・入学前とのイメージギャップがおこらないよう、募集活動を行う。
- ・保育者を目指す学生の減少

② 今後の改善方策

- ・入学前・後のギャップを少なくするためSNSの発信やオープンキャンパスにおける体験内容を精査していく
- ・より一層の業界との連携および保育の魅力発信に努める

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・入学前から楽しそうというイメージは持っていた。オープンキャンパスのイメージとのギャップはあまりなかった。サポートしてくれる先生という存在が大きい。OCのライブ配信も雰囲気伝わるため、学内の保育士とも連携をしてもいいのではないかと。(梶田委員)

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・学校周辺における地域貢献は行えていない

② 今後の改善方策

・周辺地域の方をお呼びできるようなイベントの考案に努める

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・学生時代は学生でしかできないことを沢山経験し、より多くの知識を増やし今後の保育に繋げてほしい。
土日は保育園の中で町内会の催しを実施して地域貢献を図っている。（下里委員）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(委員より総評)

教育の質向上のために様々な取り組みを実践していることを感じる事ができた。

また、保育業界だけではなく高校年代のお話も聞けたことにより専門学校と現場だけではなく、入学前の学生の状況を把握できた。実習において、現場と学校と目線合わせをしていくことが必要だと感じた。

また、園によってICTの進捗状況は異なるため適宜学校側と共有をしていきたい。

時代に沿ったより良い教育活動の運営を期待し、業界全体の底上げをしていっていただきたいと思う。

(学校より)

本会を通して委員からの評価は概ね良いものとされたが、養成校として ICT への意識を高めることが必要である認識を得られた。また、生徒指導においても生徒主体でできるような仕組みの構築を通して成功体験を得られる場面を設定していく。実習においては現場を見据えた学びの提供を心掛ける。そのためにもまずは、教員の分野リテラシーの向上に努めていく。

学校生活を通して、生徒の様子に少し変化がみられる。時代の変化に良い意味で学校側が適応し生徒指導および学校運営を進めていく大切である。その中でも、学園が大事にしている挨拶等は保育者としても第一印象の決め手になるため変わらぬ指導を継続していく。

保育者を育成する教員側の質向上と、退学防止対策に2024年度は更に努める必要がある。